



サウジアラビア：サルマーン国王による所信表明演説

3月10日、サルマーン国王は、ムクリン皇太子、ムハンマド・ナーイフ副皇太子同席の下、王族、各州知事、大ムフティー、部族長、ウラマー、閣僚、諮問評議会議員、軍高官、市民の代表をヤマーマ宮殿に集め、所信表明演説を行った。演説の要旨は以下の通り。

- ・アブドゥルアジーズ（初代）国王と国民たちは、シャリーアとスンナに基づく国家の原則と統一を打ち立てた。そして、アブドゥッラー（前）国王の治世下にて、成長と発展の道を辿ってきた。
- ・自分（サルマーン国王）は、この偉業を継続し、国家の統一、安全、安定を確保するとともに、国家基盤の建設に邁進していく。
- ・市民の間に差異はなく、地域の間にも差異はない。内務省に対し、各州の知事に市民の声や要望を聴取し市民の期待に応えるようにする重要性を強調するよう指示を出している。
- ・メディアは、社会の不一致や不和を誘発する代わりに、意見を発信し、事実を報道する機会を提供するという重要な役割を担っている。
- ・全ての政府高官、政治・安全保障評議会と経済・開発評議会には特に、市民のためになることを促進する努力を倍加することを求める。また、これに関し、閣僚や政府高官に対し、我々は我々の主要な関心である市民のサービスのために存在しているのだということを伝える。汚職の撲滅、公金の節約、不正会計の撲滅を達成できるよう、監査機関の法制度や能力を強化するよう指示していく。
- ・安全保障は繁栄と安定の基盤である。全ての国民及び国内の居住者に対し、安全保障は全ての者の責任であり、我々の安全保障及び安定を脅かす者は決して許容されない。
- ・過去数年、高い石油価格はサウジアラビアの経済に肯定的な影響を与えてきた。今後、我々は収入源の多様化を導く強固な経済を建設していく。これは公的部門と民間部門で雇用を創出するだろう。また、中小企業の成長を支援していく。これからは、国家経済において産業・サービス分野の役割が強化されていくだろう。
- ・石油価格の下落はサウジ経済に影響を与えているが、我々は開発への影響は最小限にしようと試みている。また、石油・ガスの探査は今後も継続していく。
- ・医療、住宅、教育分野のサービスも継続していく。教育分野については、公共部門と高等教育機関との統合、労働市場の要望に見合った教育の提供を通じて、発展を目指す。我々は、あなた方（若者）に尊厳のある生活を約束する職を提供することに熱心である。我々の国にいるビジネスマンは、発展のパートナーである。
- ・軍人たちは、国家の守護者であり盾である。国家は、あなた方（軍人）の国家防衛と市民の安全の維持のための素晴らしい努力に謝意を表明する。
- ・サウジアラビアの外交政策は、愛と平和を説く我々の宗教を広めることに常に邁進してきた。

また、締結した国際条約などの尊重、主権原則、内政不干渉の原則なども重要な原則である。さらに、アラブ・イスラームの問題を守ることに、特に、パレスチナ人がエルサレムを首都とする独立国家を建設することができるよう追求していく。

- ・世界で安全と安定を達成するため、正義と平和の原則を打ち立て、問題解決の手段として対話に従事し、暴力を否定する。過激主義・テロリズムに宗教はなく、サウジアラビアは兄弟国、友好国、国際機関と共に、あらゆる方法でこれらと闘っていく。
- ・我々は世界の一部である。環境問題、持続可能な開発の促進を含めた緊急に解決が必要な国際問題について、責任を共有し、問題の解決に資する貢献をしていく。

評価

サルマン国王が政治方針等について長文の演説をするのは、即位後初のことである。即位当日の1月23日には「前国王の路線を継承する」と述べた短い声明が出されているが、これは形式上のものに過ぎず、実質的な意味を伴うものではない。

上記の要旨にあるように、演説では、国内の政治課題から、経済、国防、外交など、あらゆる分野についてバランス良く言及がなされている。一部、具体的にどのような政策を進めていくのか不明な点があるものの、これがサルマン国王の政治思想を包括的に表したものであることに疑いはなく、今後のサルマン体制において指針となるだろう。

その点で興味深いのは、国内政治の文脈において、政治・安全保障評議会と経済・開発評議会の役割に直接言及があった点である。1月29日の勅令によって設立されたこの二つの評議会は、その設立の経緯と組織構造から、サルマン国王にとって肝入りの政策と見られていたが（詳細は以下を参照 [「サウジアラビア：サルマン新政権の発足・国民への給付金の支給」『中東かわら版』No. 239 \(2015年1月30日\)](#)、[「サウジアラビア：二つの専門評議会を中心とする新体制の発足」『中東トピックス』No. T14-011 \(2015年2月27日\)](#) ※会員限定)、今回の演説において再度それが確認されることになった。

経済政策に関しては、石油・ガスの探査継続に言及があったことから、原油価格が下げ止まりしている現状においても減産措置をとることはないという前政権からの方針を今後も維持していくことが確認された。また、かねてから懸案となっていた石油依存型経済を脱却する重要性が強調されたことも、サウジの石油政策の方針に変化がないことを象徴していよう。若者に対する雇用の創出は体制の安定にとっても重要な課題であり、外国企業や地方の各州の協力を必要としていることにも変わりはない。

外交・国防政策に関しては、原則論が繰り返されたのみだった。もっとも、これを建前と見るか、あるいは政策に変更がないことを示唆しているか、評価が分かれることになるかもしれない。サルマン国王自身は調整型の指導者と見られており、アブドゥッラー前国王のように強力なイニシアティブを発揮して議論を主導していくというより、諸国家間でバランスを取ったり、紛争の仲介に乗り出したりするなどの政策が重視されていく可能性がある。いずれにせよ、現段階ではいずれの予想も憶測の域を出ず、今後の政策を注視していく必要があるだろう。

(村上研究員)

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧ください。URL : <http://www.meij.or.jp/>